

〔科目名〕 文学と人間				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目(第1群)	
〔担当者〕 横 手 一 彦		〔オフィス・アワー〕 時間:講義開始後に指示 場所:616 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 この講義は、次の二つを軸として展開する。一つは、日本近代文学を概観し、その特徴を大まかに分析する。作品を読み、時代との関わりや情知の形成過程を考え、その動態を考察する。その過程から、個人に関わる基本的項目や要件を見出し、個別的に再考する。このことを目的とする。 個人の構想力(想像力)は、近代化(欧米化)の過程に随伴し、そこに範を置きながらも、多様な人間、様々な思考、錯綜した行動を描いた。それらは、必ずしも道徳的な尺度や倫理的な基準に拠らず、そこからこぼれ落ちる要因に関心を向けた。明治という時代の特異性や、明治という時代に生きた夏目漱石の作品を具体的に考察する。 もう一つは、北東北の地域性を視野に入れ、個別の文学作品や映像作品を考察する。このことを目的とする。新田次郎の文学作品『八甲田山死の彷徨』と映画作品「八甲田山」と八甲田連峰、水上勉の文学作品『飢餓海峡』と映画作品「飢餓海峡」と下北半島、松本清張の文学作品『砂の器』と映画作品「砂の器」(——必見に値する映画作品・脚本家橋本忍)と津軽半島などの地域性をテーマとして設定する。 また、太宰治の文学作品『津軽』を部分的に取り上げたい(あるいは津軽三味線の始祖・仁太坊)。地に根差し、北東北の現実に生きた人間の記録を、異なった表現形式を組み合わせ、対比的に、また連続的に考察する。ことばによる理解と表現。また、映像による理解と表現。それらが重複する領域を焦点化し、いまの私たちが立つ地点の再考に及びたい。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕							
私たちは、学び、考える。行動し、時には個人的な、社会的な批判を受ける。あるいは、評価される。現代では、その主体性という考えを否定する見方もある。しかし〈自分〉が基点であり、〈自分〉を起点とする在り方への考察であることに変わらない。要は、本講義の関心からすれば、ことばによる「理解」と「表現」である。それらの意味を考え、記述するという実践をおこなう(記述的科学と方法定位的科学の区分)。私たちが立っている、いまという時空間を考え直すため、近代化という過程を再検討する。そして、新たな全体像を、個の側から再構想する。その未達と到達、形式の交差と離反などを、文字表現の分析を通じ、その一部であるが、読み解く。文字は、その生成時から、全く人間的なものであり、そこに特定の関係性が自ずと生み出された。〈自分〉の在り方は、生きている〈自分〉の現実に関わる。そこに派生する疑問を、個別作品を分析しながら、教場で考えたい。そのような課題設定は、他科目を学ぶ〈自分〉の在り方や〈学び〉との関わり方へと自ずと広がる。 ※時間割表に、同一科目名「文学と人間」が二つ配置されている。より適切な受講者数で、教室での個々の応答を大切にしたいという主意による。同一科目名の二つを受講することはできない。							
〔科目の到達目標〕 これまでの「国語」教科とは異なる〈ことばを学ぶ〉パターンに触れ、幾つかの要点を習得することで、〈自分〉が〈自分〉を考え、〈自分〉が〈自分〉のことばで、「理解」し「表現」する大切さに及ぶ。							
「文学」は、人文科学に属する学問領域である。特定の課題を言語化する能力、言語化による「理解」と「表現」、記述的科学の実践、それらの習得を到達目標とする。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2 ○	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	

【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】 学生の積極的な提案に向き合いたい。しかし要望の総てに応えることは出来ないし、要望の総てが〈学び〉に根拠を持つとも限らない。〈学び〉に根拠を持たないと思われる要望や意見には応じられない。時には受講生との意見交換が必要になる。受講態度や講義内容や進め方等に関しては留意する。 昨年と同様に、対話型の講義を基本に進行する。受講生の関心を勘案し、昨年度より視覚教材を多く取り入れた授業計画とした。適宜、プリントを配布し、概要や要点などを明示する。	
【教科書】 特に指定しない。	
【指定図書】 特定の書籍を指定しない。配布した資料や文書の通読を求める。また文献等を紹介する。	
【参考書】 講義の進展に伴い、適書を指示する。また、参考文献を紹介する。	
【前提科目】 なし。	
【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) 近代文学の作品が、日本近代化の諸相を、どのように描いたか。この概略を理解し、併せて北東北の地域的な特性について理解を深める。ことばや映像の表現形式を具体的に考察することを通じ、様態を分析的に把握し、批判的に「理解」し、〈自分〉の「表現」能力を高める、その到達度によって評価する。	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 日本の近代化の諸相を、近代文学の作品が、どのような行為として描いたか。この変化の概略を理解し、併せて北東北の地域的な特性について理解を深める。ことばや映像の表現形式を具体的に考察することを通じ、現在の様態を分析的に把握し、批判的に「理解」し、〈自分〉の「表現」能力を高める、その到達度によって評価する。	
【実務経歴】 なし。	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 講義への導入 「文学」を学ぶということ 内 容 :始めに——自己紹介・受講要件の確認・受講態度等・講義の概略・学生の要望 : 講義の導入 1(例. ことばの基本形) 講義の導入 2(例. 八甲田山) 教科書・指定図書 都度、適書を紹介し、講義の進行に合わせて参考資料などを配布する。
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 日本の近代文学 内 容:坪内逍遙「小説神髓」の位置 近世からの転倒(あるいは進展) 初期理論の確立 :二葉亭四迷「小説総論」との比較 教科書・指定図書 同上
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 明治という時代 1 内 容:西洋の受容——英文学者夏目金之助と作家夏目漱石 公私に生きる 〈私〉に生きる 教科書・指定図書 同上
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 明治という時代 2 内 容:西洋の受容——例. 夏目漱石「坊ちゃん」 学校教育制度 立志 制度と個 教科書・指定図書 同上
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 明治という時代 3・明治期の折り返し 内 容:講義の前半に立ち返る／講義の到達点と未達点／講義中に小レポート作成 展開の諸相——例. 森鷗外「舞姫」 新帰朝者 外側と内側の相克〈公〉に生きる 教科書・指定図書 同上
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 明治という時代 4 内 容:展開の諸相——例. 樋口一葉、与謝野晶子、山川登美子、女性の表現者たち 女性として、≦ 人として、生き方と生活と表現活動

	教科書・指定図書 同上
第7回	テーマ(何を学ぶか): 地域性から考える——太宰治 / 仁太坊(津軽三味線) 内 容: 地域との関わり 例. 太宰治『津軽』 太宰治と津軽 津島修治 / 仁太坊(津軽三味線) 教科書・指定図書 同上
第8回	テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 1 内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く 例えば——水上勉『飢餓海峡』と映画「飢餓海峡」と下北半島 その1 教科書・指定図書 同上
第9回	テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 2 内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く : 例. 水上勉『飢餓海峡』と映画「飢餓海峡」と下北半島 その2 教科書・指定図書 同上
第10回	テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 3 内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く : 例. 松本清張『砂の器』と映画「砂の器」と津軽半島 その1 教科書・指定図書 同上
第11回	テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 4 内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く : 例. 松本清張『砂の器』と映画「砂の器」と津軽半島 その2 教科書・指定図書 同上
第12回	テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 5 内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く : 例. 新田次郎『八甲田山 死の彷徨』の成立 映画「八甲田山」製作 その1 教科書・指定図書 同上
第13回	テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 6 内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く : 新田次郎『八甲田山 死の彷徨』の分析 その2 脚本家橋本忍 教科書・指定図書 同上
第14回	テーマ(何を学ぶか): 地域から考える——北東北の文学作品と映像作品 7 内 容: 地域との関わり——北東北の地域性 北東北の地に生きる 北東北の生活を描く : 新田次郎『八甲田山 死の彷徨』まとめ その3 教科書・指定図書 同上
第15回	テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: 通史と通論という思考 話す. 聞く. 読む. 書く. 人間的な行為 (人である・人になる・人となる) 文字化という行為(言語化) ことばによる「理解」と「表現」 教科書・指定図書 同上
試験	期末試験実施(受講者数や関心の在り方などから期末レポート提出とすることもある・教場で指示)。